

令和7年度 清原東小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

日本国憲法及び教育基本法にのっとり「人間尊重の教育」を基盤とし、一人一人の児童を正しく理解し、よりよき人格の陶冶を図り、「主体的で知・徳・体の調和のとれたたくましく生きる児童」を育成する。

（2）目指す児童像

- ・心豊かで思いやりのある子ども（やさしい子）
- ・進んで学びよく考える子ども（まなぶ子）
- ・健康でたくましい子ども（たくましい子）
- ・心をつくして働く子ども（はたらく子）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「学びの連続性を踏まえ、児童が社会において自立的に生きる基礎を培う活気に満ちた学校づくり」

小学校教育は、生涯学習の基礎づくりの段階である。児童が社会で自立的に生きるために必要とされる力を身に付けることができるような教育活動を展開し、一人一人が自己実現に向けて意欲的に挑戦できる魅力ある学校の創造に向け、保護者や地域等の協働のもと、全職員が一丸となって取り組む。それぞれの持ち味や専門性、よさを発揮し、自他の創意と向上を尊ぶ教師集団であることが、活気に満ちた学校づくりの基盤である。教職員・児童が存分に力を発揮し、「楽しく、居がいがあり、互いの成長を実感できる」学校づくりに努める。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）学習指導の充実

- ・基本的な学習態度の定着を図る。（姿勢・話の聞き方・発表の仕方・学習の準備等）
- ・「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善に取り組み、教員の指導力の向上を目指す。
- ・図書やICT等（AI型学習ドリルを含む）を計画的・効果的に活用した教育活動の充実を図る。

（2）児童指導の充実

- ・一人の人間として尊重し自己有用感を高める指導を行い、思いやりや規範意識、やりぬく心の育成に努める。
- ・道徳教育の充実及び児童の主体性を尊重した教育活動を展開し、自己指導力の向上を図る。
- ・人権教育を推進し、いじめ防止や不登校対策、特別支援教育や外国人児童の支援を充実させる。

（3）教職員の資質能力及びチームとしての学校力向上

- ・教育公務員としての使命と職責を自覚し、互いに学び合い高め合える同僚性の構築と教職員の指導力の向上を目指す。（OJTや校内研修を活用して、授業力や学級経営力の向上を図る。）
- ・業務の適正化及び勤務時間を意識した働き方を推進し、全職員で取り組む。

（4）危機管理意識の高揚

- ・普段から全教職員の危機管理意識の高揚を図るとともに、危機的状況に対した場合、最悪の状況を想定して初期対応を迅速かつ慎重に進め、指揮系統を明確にした対応を図る。

（5）地域と連携した活動の充実

- ・家庭や地域、企業等との協働を推進することにより、様々な教育資源（ひと・もの・こと）を生かした地域とともにある学校づくりに努める。
- ・学校公開（授業参観、オープンスクール、土曜授業、行事等）、各種便り、学校HP等による情報発信を推進し、保護者や地域との連携を図り、信頼関係の構築に努める。
- ・保護者や地域の声を学校経営に生かすとともに、家庭的な問題を抱えている児童や外国人児童への対応を関係諸機関と連携を図りながら、よりよい児童の育成に向けて取り組む。

【清原地域学校園教育ビジョン】

自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて主体的に取り組む児童生徒の育成
～ 人や地域との豊かなかかわりを通して ～

4 教育課程編成の方針

- ・公教育の立場から、教育関係法規、学習指導要領及び県・市の教育行政の方針等を踏まえ、教育課程を編成する。
- ・教育目標の具現化を図るため、家庭や地域との連携・協力や教科横断等の視点を取り入れた「社会に開かれた教育課程」編成及びカリキュラム・マネジメントの充実に努める。
- ・義務教育9年間の学びの連続性を重視し、創意に満ちた特色ある教育活動が展開できるよう工夫する。
- ・問題解決的な学習の充実とともに、各教科等の関連を図り、言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力など学習の基盤となる能力や持続可能な社会の創り手となるために必要な資質・能力を育む教育活動の展開を目指す。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

社会を自立的に生きることができ、児童の育成を目指し、教職員の同僚性を大切にされた学校経営を推進するとともに、学校業務の適正化を図る。

(2) 学習指導

一人一人が基礎的・基本的な知識・技能を習得し、学ぶ楽しさを味わいながら、主体的・協働的に学習に取り組むことのできる児童の育成。

(3) 児童生徒指導

基本的生活習慣を身に付け、自他を大切にすることを児童の育成。

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

心身ともに健康で安全な生活を送るために、望ましい生活態度や習慣を身に付け、進んで健康・体力づくりに取り組む児童の育成。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所には下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考えて、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童、教職員、保護者の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 朝の学習や授業で、漢字や計算の練習や小テストを行うことにより、基礎学力の定着を図る。</p> <p>② 発達段階に応じて授業の形態を工夫し、主体的・対話的な学習ができるようにしていく。児童の協働的な学びの姿を授業参観等で保護者に発信していく。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答 児童：○93.7% 教職員：△87.0% 保護者：△84.4% ・児童は達成できているが、保護者、教職員は目標値を下回ったが、昨年度より上昇が見られた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取り組みを継続しつつ、教職員の共通理解のもとに全校体制で取り組んでいく。相互に授業参観を行い、授業力の向上を目指していく。

<p>1- (2) 豊かな心を育む教育の推進</p>	<p>A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 「児童（わたし）は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童、教職員の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 問題解決的な学習や役割演技などの体験型の学習を取り入れることで道徳の「親切、思いやり」の授業を充実させる。 ② 登校班での登校や縦割り班での休み時間の共遊等を充実させ、相手の立場を考えて思いやる心などを涵養する。 ③ ボランティアへの手紙を書く活動を通して、地域の方への感謝の気持ちを表す。 ④ 学校図書館を核とした読書活動の推進により、豊かな心の育成に努める。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○92.1% 教職員：○100% ・教職員の目標数値は昨年度より22.2ポイント高くなり目標が達成できた。</p> <p>【次年度の方針】 ・道徳の授業を中心として日々の活動の中で、児童同士が認め合ったり協力し合ったりできる場面を意図的に設定する取り組みを拡充する。 ・高学年としての自覚をもたせるために、縦割り班での清掃や遊びを継続する。 ・「ありがとうを伝えよう」の会を計画し、ボランティアへの手紙を書くなどの活動を通して、思いやりの心を育む活動を継続する。</p>
<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 「児童（わたし）は夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童、保護者の肯定的回答80%以上</p>	<p>① キャリア・パスポートを活用して、家庭との連携も図り、児童の夢や目標への関心を高める。 ② 漢字計算オリンピックや教科体育の各種検定、チャレンジブックなど、児童が具体的な目標を決めて取り組める活動を設定する。また、「学力パワーアップ週間」や授業の導入での復習等と取り入れるなど、粘り強く学習に取り組む心育てる。 ③ 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○92.4% 保護者：○84.2% ・教職員の目標数値は87%で、昨年度より20.3ポイント高くなった。</p> <p>【次年度の方針】 ・進級時や各行事の時に、自分の目標や夢について考える機会を作り、一年間を通して将来について意識させ記入させるなどキャリア・パスポートの活用を継続する。 ・漢字計算オリンピックや各種検定を行ったり、朝の学習や授業の導入などの短時間でこれまでの復習を取り入れたりして、粘り強く学習に取り組む心育てる。</p>
<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 「児童（わたし）は、健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒児童、教職員の肯定的回答80%以上</p>	<p>① きらきらウィーク（歯の健康・目と姿勢、食育）の設定、お弁当の日の計画やチャレンジ100を活用して生活習慣や自分の健康について興味関心を高める。 ② 各避難訓練や交通安全教室での体験を日常生活や普段の登下校に生かせるよう事前指導や事後指導を充実させる。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○95.3% 教職員：○87.0%</p> <p>【次年度の方針】 ・来室記録などを保健室入り口に掲示することで、児童がけがなどについて意識するようになっていた。そのほかの活動は次年度も継続する。</p>
<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 「児童は進んで意見を発表したり、協力したりして、集団での課題を解決している。」 ⇒教職員の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 「宮未来キャリア教育」の充実を図り、児童が自分のよさや成長を実感し、自己有用感が高められるよう、児童相互に認め合う場を設けるとともに、教職員も認め励ます指導に努める。 ② 委員会活動や縦割り班活動、学級の係活動や当番活動などを通して、友達やクラス、学校のために自分ができることを考え、実践できる場を設定する。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答 教職員：○87.0% ・教職員において、大幅に数値が上がり目標数値を達成することができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続するとともに、委員会や縦割り活動などの充実を図り、児童が自らの目標を達成できた際には認め励ます言葉かけをさらに増やしていく。</p>

<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 「児童は、外国語活動(英語)の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童、教職員の肯定的回答80%以上</p>	<p>① ALTを活用した、英語によるやりとりを中心とした授業を推進する。 ② 朝の会に「デイリーイングリッシュ」を位置づけ、毎日英語にふれさせる機会を設定する。 ③ 5・6年生は、ALTとの「スピーキングテスト」を年2回行い、話す力の定着度を見取り、指導する。 ④ ALTを迎えに行く際には英語を使うなど、習った英語を使う場を設け、教職員間での共通理解を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○80.4% 教職員：○82.6% ・教職員の肯定割合が15.9ポイントアップした。</p> <p>【次年度の方針】 ・ALTを迎えに行く際には英語を使うなど、習った英語を使う場を設け、教職員間での共通理解を図る。</p>
	<p>A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 「児童(わたし)は、宇都宮の良さを知っている」 ⇒児童、保護者の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 3・4年社会科・総合的な学習の時間において宇都宮市や清原地区の自然・産業・生き物などについて調べ学習を進めることで、郷土宇都宮のよさに気づき、親しむようにする。 ② 5・6年総合的な学習において、宇都宮市の自然、産業、歴史、文化等について学習することを通して、郷土に対する誇りや愛情を育むようにする。 ③ 校内放送で「宇都宮の歌」を流したり、児童が調べた資料を掲示したりして、郷土の歴史や伝統文化などに興味をもてるようにする。 ④ 「宮っ子伝統文化体験教室」や「ふれあい文化教室」を継続していくとともに、各学年で実践している地域学習や給食で提供する「郷土食」など、「宇都宮の良さ」について学んでいる様子が伝わるように、各種たよりやHPでの発信を工夫する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○83.2% 保護者：△65.1% ・保護者の肯定的回答率が目標値を大きく下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・「宮っ子伝統文化体験教室」や「ふれあい文化教室」を継続していくとともに、各学年で実践している地域学習や給食で提供する「郷土食」など、「宇都宮の良さ」について学んでいる様子が伝わるように、掲示物や各種たよりや学校HPでの発信を工夫する。保護者にも市のよさが伝わるように体験イベントなどを紹介していく。</p>
<p>2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p>	<p>A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 「児童はデジタル機器(パソコン)や図書等を学習に活用している」 ⇒児童、教職員の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 発達段階や児童の実態に応じてICTを効果的に取り入れた授業を増やす。 ② ICT機器や図書資料を有効活用しながら、「児童にとって分かりやすい授業」を目指して指導の工夫に取り組む。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○90.8% 教職員：△82.6% ・児童は目標指数に達しているが、教職員は下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・ICT機器等を授業で効果的に使う機会を増やしていく。</p>
<p>2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 「児童は、持続可能な社会について、関心をもっている」 ⇒教職員の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 読書活動の一環として、朝の読み聞かせや教室配置の図書に、環境やエネルギー、国際理解、防災等に係る書籍を意図的に選択し、私たちの日常生活と地球規模の課題がつながっていることを感じさせる。 ② 年度当初に全教職員に共通理解を図るように働きかけ、意識を高めるようにするとともに、各学年とも「環境」「国際理解」について学習する際に、SDGsについて意識できるように配慮する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・肯定的回答 教職員：△73.9%</p> <p>【次年度の方針】 ・放送委員会のお昼の放送でSDGsに触れる機会を設けた結果、児童の関心が高まった。児童会を中心に各委員会でSDGsについての取り組みを考えさせる。</p>
<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 「教職員は、特別な支援を必要としている児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 特別な支援が必要な児童に対して、個別の教育支援計画を作成・活用し、学校全体で指導にあたる。 ② 職員会議の折に、児童の情報交換を行って共通理解を図り、適切な支援をする。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・肯定的回答 教職員：○100% ・教職員は目標指数に達している。</p> <p>【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続し、児童の実態に応じた適切な支援を行っていく。</p>

<p>3-(2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答90%以上 「学校はいじめ対策に熱心に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答90%以上 ⇒保護者の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 学校いじめ防止基本方針に基づき、常に実態把握をしながらいじめの未然防止、即時対応に努める。 ② いじめの早期発見・早期解決のため、5月、9月、11月、2月に実態調査を実施し、学期に1回教育相談を行う。 ③ いじめゼロ強調月間の取組を充実させ、ホームページ等で保護者への啓発を図る。 ④ 道徳の時間にいじめに関する内容を扱った授業をするなど、人権感覚の醸成を図る。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○99.4% 教職員：○100% 保護者：△78.8% ・児童、教職員おいて、数値が上がり目標数値を達成することができた。 ・保護者と地域住民は、昨年度よりも大幅に数値が上がった。</p> <p>【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続し、より児童の人権意識の向上を図る。</p>
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 「教職員は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 ⇒児童、教職員、保護者の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 教職員が児童のよさを取り上げ、他の児童に紹介するなどして、自己有用感の向上を図る。 ② グループ学習や係活動で、自分の考えを活かしたり、達成感を味わえるようにしたりすることで、帰属意識の高い学級づくりを目指し、不適応反応の予防に努める。 ③ 帰りの会で児童のよい行いを互いに発表し合う活動を取り入れる。 ④ 教職員同士の情報交換を密にして、児童の些細な変化を伝え合えるようにする。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○97.8% 教職員：○100% 保護者：○88.8% ・児童、教職員、保護者ともに目標数値を達成することができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続し、よりよい学級経営を目指していく。</p>
<p>3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 「教職員は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとして、児童（わたしたち）が楽しく学校生活を送れるようにしている。」 ⇒児童、教職員、保護者の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 児童や地域の実態を踏まえて、前年度の評価結果と反省をもとに、教育課程を編成する。 ② 学校行事や児童会活動、学級活動等、児童が主体的・自立的に取り組む場を可能な限り設定する。 ③ 学校の取組や児童の様子を学校だより等のおたよりや学校ホームページで発信して、保護者や地域の方に伝える。 ④ 教育相談を2週間とし、担任と児童の相談時間を十分に確保する。 ⑤ 「相談カード」等を活用し、日頃から児童が相談しやすい雰囲気を作ったり、日々の様子から教師が適切な指導・支援・助言をしたりする。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○97.2% 教職員：○100% 保護者：△87.2% ・保護者の数値指標は目標を下回っているが、昨年度より5ポイント高くなった。</p> <p>【次年度の方針】 ・学校での取り組みを学校だよりや学年だよりや学年学級懇談会、学校HP等で発信していく。 ・音楽集会などのイベントを計画し、担当学年・担当委員会が中心となり活動を盛り上げたり、運動会では紅白の勝敗を付け、自分の頑張りが反映できるようにしたりする場を多く設定することで、主体性が育ってきたので、継続していく。 ・「相談カード」の活用を児童に啓発し、教育相談アンケートやいじめアンケートをとる時に紹介していく。また、どの教職員でも適切に相談ができるよう適切な支援体制を整えておく。</p>
<p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>			
<p>4-(1) 教職員の資質・能力の向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答90%以上 「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている」 ⇒教職員の肯定的回答90%以上 ⇒保護者の肯定的回答85%以上</p>	<p>① 単元や本時のめあてを明確にし、ICT機器を積極的に活用するなど、学習意欲を高めるための授業や分かる授業を工夫する。 ② 少人数指導、TTによる指導、習熟度別学習、日本語指導、かがやきルームの活用などの学習状況を適切に把握し、指導の工夫・改善をする。 ③ 校内授業研究に積極的に取り組み、一人一授業公開を行い、指導法の工夫・改善を図っていく。また、研修の様子をHPで発信していく。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○97.8% 教職員：○100% 保護者：△82.9%</p> <p>【次年度の方針】 ・次年度も具体的な取り組みを継続するとともに、教職員の取り組みや研修の様子を学校だよりや学校HPで発信していく。</p>

<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 学校運営の方向性を明確にし、教員も専門スタッフも「チームとしての学校」の一員として目的を共有し、取組の方向性を揃えるようにする。</p> <p>② 日頃より良好な人間関係作りに努めるとともに、教職員一人一人の能力、得意分野を生かした組織作りに努め、やりがいをもって仕事ができる環境を整えていく。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答 教職員：○91.3%</p> <p>B</p> <p>【次年度の方針】 ・①②ともに今年度の取組を継続し、さらに学年・ブロック間で情報を共有したり、専門性を生かした教材づくりを推進したりしていく。</p>
<p>4- (3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 業務の精選・見直し、ICT化等事務処理の効率化など長時間労働の改善のため、校務分掌の見直しを行う。</p> <p>② 毎週金曜日を定時退勤日として設定し、勤務時間を意識した勤務に心がけるなど、長時間勤務の改善に努める。</p> <p>③ 教職員の業務の負担軽減に向けて、学校支援ボランティア等の効果的な活用を図る。</p> <p>④ ミライムなどを活用してペーパーレス化や効率化の推進について共通理解を図り、校務全般の一層の効率化に努める。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答 教職員：△87%</p> <p>B</p> <p>・肯定的回答率が目標値を下回ったが、昨年度より16.6ポイント高くなった。 ・校務分掌のペーパーレス化が進み、校務の効率化が図られた。個人の意識も高まった。金曜日には「定時退勤日」の意識付けが行われた。</p> <p>【次年度の方針】 ・①②④ともに今年度の取組を継続する。 ・学校支援ボランティアの募集の方法や仕方を見直し、保護者のボランティア活動の啓発を行う。</p>
<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 「私は今の学校がすきです。」 ⇒児童の肯定的回答90%以上</p> <p>「学校は、児童や教職員の交流、小中一貫教育カリキュラムの作成・見直しなど、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒教職員、保護者の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 小中が情報を交換し合い、義務教育9年間を通した系統的な指導と地域の教育資源を活用した特色ある教育活動を推進する。</p> <p>② 小中間の交流活動を活性化することで、6年生児童がスムーズに中学校生活をスタートできるようにする。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○91.3% 教職員：△82.6% 保護者：△80.9%</p> <p>B</p> <p>【次年度の方針】 ・小中が情報を交換し合い、義務教育9年間を通した系統的な指導と地域の教育資源を活用した特色ある教育活動を推進し、保護者に啓発していく。 ・地域学校園あいさつ運動やお弁当の日等小中学校で共通して取り組んでいるものやその意義について教職員の共通理解を図り、児童にも伝えたりしていく。学校だより・学校HPでの啓発も、継続していく。</p>
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p> <p>5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】 「学校は家庭・地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者・地域の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 読書ボランティア、外部講師やPTA・地域ボランティアと連携した活動を各学年とも学期に1回以上実施する。</p> <p>② 各学年の校外学習をはじめとして、地域と連携した教育活動の実施に向け、「魅力ある学校づくり地域協議会」を有効に活用し、学校運営の充実を図る。</p> <p>③ 清東っ子「夢」教室において、地域の企業や様々なジャンルで働く方々を招き、仕事に関する話や実演などを通し、児童が自らの将来に関心をもてるようにする。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答 保護者：○93.5% 地域住民：○100%</p> <p>B</p> <p>【次年度の方針】 ・読書ボランティア、外部講師やPTA・地域ボランティアと連携した活動を各学年で今後も継続して実施する。 ・読み聞かせボランティアや総合的な学習の時間の出前授業など、地域と連携した教育活動を実施し、「魅力ある学校づくり地域協議会」を有効に活用し、学校運営の充実を図っていく。 ・「清東っ子『夢』教室」において、地域の企業や様々なジャンルで働く方々を招き、仕事に関する話や実演などを通し、児童が自らの将来に関心をもてる総合的な学習の時間を計画していく。</p>

<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒保護者、地域の肯定的回答85%以上</p>	<p>① 毎月一回安全点検を実施し、学校環境における潜在的危険を点検観察し、児童が常に安全な環境で学習活動が行えるように努める。職員と機動班の連携を図る。 ② 特に児童が多く活動を行うと思われる箇所の設備等においては日常的に点検を行い、必要に応じて修繕等を迅速に行うようにする。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・肯定的回答 保護者：○85.9% 地域住民：○100%</p> <p>【次年度の方針】 ・①②ともに今年度の取組を継続する。</p>
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 「児童はICT機器を学習に活用している」 ⇒教職員の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 一人一台端末活用研修やプログラミング教育の研修を行い、授業での積極的な活用を図る。 ② ICT機器が使いやすい環境整備に努める。また、ICT支援員との連携を図り、児童が基礎的なスキルを身に付けられるようにし、日常的に一人一台端末を使用できるようにする。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・肯定的回答 教職員：○95.7% ・教職員は数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・数値指標は達成したが、ICT機器の効果的な活用に関して、職員間で差がない訳ではないので、情報教育主任を中心に研修の機会を設ける等、職員一人一人のスキルアップを図っていく。</p>
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答90%以上 ⇒教職員の肯定的回答85%以上 ⇒保護者、地域の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 地域と連携した朝のあいさつ運動を行う。 ② 生活委員によるあいさつ運動や、あいさつ週間を行うなど、あいさつを推進する活動に積極的に取り組む。 ③ 教職員が率先してあいさつをすることで、あいさつがしやすい雰囲気醸成する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○93.0% 教職員：○87.0% 保護者：○87.4% 地域：○100% ・児童、保護者、教職員、地域住民ともに目標数値を達成することができた。 ・教職員、地域住民の数値は大幅に上がった。</p> <p>【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続し、児童が主体的に挨拶をすることが習慣化するように、継続して指導していく。</p>
	<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 「児童は授業と生活の決まりやマナーを守って生活している」 ⇒児童、教職員の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 「清原っ子みんなのやくそく」と「清東小スタンダード」をもとに週の生活目標などに掲げながら、基本的な生活習慣を身に付けさせていく。その中でも、「廊下は歩く」「時刻を守る」など、学校生活で中心となるきまりについて、教職員が足並みを揃えて指導していく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○92.4% 教職員：○91.3% ・児童、教職員は目標数値を達成することができた。 ・教職員は昨年度と比較し、数値が大幅に上がった。</p> <p>【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続し、今年度作成した「清東っ子の約束」をもとに、児童がきまりやマナーを守って生活できるように、指導していく。</p>
	<p>B3 地域や学校、友達のためになるような行いをしている。 【数値指標】 「私は、地域や学校、友達のためになる善い行いをしたことがある」 ⇒児童の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 帰りの会などでよい行いを認め合い、奨励することにより、意識の高揚を図る。 ② 特に顕著な行いは、「宮っ子心の教育表彰」で表彰し、学校全体で善行を共有する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○93.0% ・児童は、目標数値を達成することができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続し、認め励ます指導を今後も行っていく。</p>

	<p>B4 互いに協力して学習することにより、考えを深め合っている。 「私は、話し合い活動することにより、友達の考えや思いがよく分かる」 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答90%以上 「児童は、互いに協力して学習することにより、考えを深め合っている」 ⇒教職員の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 学習活動の中で自分の考えを書いたり伝えたりする時間を意図的に設定し、自分の考えを深めたり、友達の考えのよさに気付いたりできるようにする。 ② 教育活動で、言語活動（人前で話したり意見や考えを表現したりする活動）の充実を図る。 ③ ペア・グループ学習などの学習形態を工夫し、学び合いのよさを意識させる活動を取り入れる。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○90.2% 教職員：○91.3%</p> <p>【次年度の方針】 ・次年度も継続して考えを深め合う学習を充実させていく。</p>
	<p>B5 様々な自然や人々とふれあい、体験する機会を作り、豊かな感性や人とかかわる力を育てている。 【数値指標】 「児童は、他の学年の人や地域の人たちと一緒に活動するとき、進んで活動している。」 ⇒児童、教職員、保護者、地域の肯定的回答85%以上</p>	<p>① 地域探検や清東っ子夢教室などの活動を通して、地域の自然や文化財等を活用するとともに、様々な人々とふれあう機会を設定する。 ② ホームページや学校だよりなどを活用して、地域教材を利用した学習や行事について保護者へ周知し、学校の取組について理解が深まるよう努める。 ③ 自然や人々とふれあい、体験する機会を作るために、PTAや保護者、地域の団体などに学習や行事の協力をお願いする。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○85.4% 教職員：○100% 保護者：△79.8% 地域住民：○100%</p> <p>【次年度の方針】 ・児童や教職員、地域住民の肯定的回答が向上しているため、その様子を保護者に発信する機会を増やす必要がある。（校内掲示物・学校HPなど）</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本校では、学校教育目標として「主体的で知・徳・体の調和のとれたたくましく生きる児童の育成」を掲げ、「学びの連続性を踏まえ、児童が社会において自立的に生きる基礎を培う活気に満ちた学校づくり」を学校経営の理念として、保護者や地域等の協働のもと、全教職員が一丸となって取り組んでいる。

学校マネジメントアンケートの肯定的回答率は、児童及び地域住民はすべて目標数値を達成したが、保護者においては目標数値に達しない項目があった。

A8「デジタル機器の活用」については、今年度1年生への一人一台端末の導入時期が遅かったこと、低学年では端末の操作に不慣れで利用が少ないこと、高学年では調べ学習や授業等で端末を使う機会が多い反面、図書等の利用が少ないことが考えられる。ローマ字入力が早い段階でできるように低学年にはローマ字一覧表を配付したり、端末だけでなく図書等の活用も意図的に取り入れたりしていく。

A11「いじめへの対応」については、予防、早期発見、早期解決等、校内及び関係機関との連携した組織的な取組の継続・強化に努めるとともに、学校での取り組みについての発信にも努めていきたい。また、A12「不登校を生まない学級経営」については、教職員がいじめを許さないという態度、児童一人一人を大切にするという意識を高くもち、日常的に指導を行っているが、学校全体としては若干名不登校傾向にある児童がいるというのが現状である。今後も、児童一人一人に寄り添い、小さな変化を見逃さないよう、学校全体で組織的な対応を図っていきたい。

A16「勤務時間を意識した業務効率化への取組」については、毎週金曜日を定時退勤日とし、ICT等を活用して業務の効率化を図った結果、多くの職員が自分の勤務時間を意識した働き方を心掛けるようになり、昨年度に比べると全体的に退勤時刻が早くなってきた。

7 学校関係者評価

A11 いじめに関する保護者の肯定的回答が依然として低いので、学校で取り組んだ（いじめゼロ集会等）動画等をホームページ上で公開したり、児童集会等を保護者や地域に公開したりしてはどうか。また、A12 不登校対策については、理由が分からないが登校できないという児童もいると考えられる。いじめや不登校については、子供だけでなく保護者にも啓発をしていく必要があるように感じる。

B1～B5の学校独自の質問はとても素敵な質問で、学校が子供たちに身に付けさせたいと思っている内容が見て取れる。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・児童が明るくいいきと学校生活を送り、自己有用感が高められるよう、児童相互に認め合う場を設けるとともに、教職員も認め励ます指導を継続することで、一人一人のよさや可能性を伸ばし、主体的に困難に立ち向かうことができる児童の育成に努めていく。

・学習面においては、ICT 機器だけに頼るのではなく、図書等の活用も推進し、デジタルとアナログのバランスを考えながら授業等に取り組んでいく。また、家庭学習や朝の学習の時間を有効に活用するため、学習形態を工夫していく。

・いじめ対策については、あらゆる教育活動を通じて「絶対に許されない」ことであることを、全教職員が共通認識のもと継続指導するとともに、「アンケート調査」「教育相談」「いじめゼロ集会」「ケース会議」「SCの活用」などにより、不登校対策と併せて未然防止、早期発見、早期解決に努める。

・基本的な生活習慣を身に付けるために、「清原っ子の約束」を新たに作成し、令和8年1月から児童と保護者に通知し、指導の徹底を図っている。年度途中での提示であったため、1月から3月は移行期間と捉え、来年度4月からの指導の徹底に繋げていく。また、週的生活目標については、時期や児童の様子を見ながら、その時に合った目標を立て、児童に意識付けを図ったり、巡回による見守り・指導を継続したりするなど、全教職員が足並みを揃え、児童の発達段階に応じた指導に取り組んでいく。

・教職員が健康的でやりがいを感じながら勤務し、質の高い教育を行うために、毎週金曜日を定時退勤日として設定したことで、教職員一人一人が時間を意識した働き方ができるようになってきた。今後も保護者や地域の理解・協力を得ながら、よりよい働き方を実践していく。

○「あいさつ」については、教職員が率先して手本を示すとともに、児童会や地域学校園のあいさつ運動の機会を活用するなど、さまざまな場面で取組の活性化を図っていく。

・学校の取組を保護者や地域の方々に知っていただくために、各種たよりやホームページ、地域協議会やオープンスクールなど、様々な機会、方法を活用して情報を発信して周知を図っていく。